



宇田川榕菴



宇田川玄真



宇田川玄隨



箕作秋坪



箕作阮甫



特集 1

すばらしき 津山の洋学者たち

日本近代化の基礎を作った津山地域の学者たち。江戸時代後期から明治期にかけて、宇田川・箕作両家をはじめ数多くの洋学者を輩出しました。

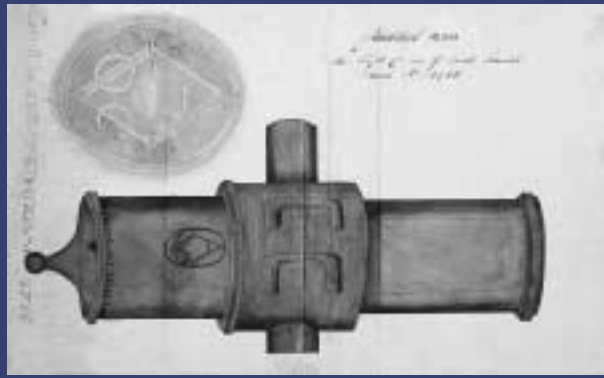
津山城築城400年の節目にあたる今年、津山洋学資料館では日本洋学史に光り輝くこれらの洋学者たちの業績や人物像にスポットをあて、津山城築城400年記念事業「秋の陣」の中で特別展を開催します。その中で展示される貴重な資料の一部を紹介しましょう。

洋学のまち 津山のはじまり

江戸時代の日本は、鎖国によって外国との交流を制限していました。西洋諸国のうちで唯一交流のあったのがオランダで、学者たちはオランダ語を通じて西洋の学問や文化を取り入れようとしました。

津山に本格的に洋学を紹介したのは宇田川玄隨。彼は江戸詰めの津山藩医で、杉田玄白や桂川甫周に学び、「西説内科撰要」という日本で最初の内科医学書を翻訳し、紹介しています。さらに、宇田川家では玄隨の養子で、今日使われている医学用語などをつくり、当時の翻訳の第一人者だった宇田川玄真、日本に植物学・化学を紹介した宇田川榕菴も洋学の大家です。

また、箕作家では宇田川玄真に学び、幕末第一の洋学者といわれた箕作阮甫、地理学者の箕作省吾、幕末の外交交渉や明治維新後の文明開化に尽くした箕作秋坪など、日本を代表する優秀な人材がいます。このように、立派な業績を上げ、さまざまな活躍をした洋学者たちを大勢輩出したことから、津山は「洋学のまち」として知られるようになったのです。



はりこみちょう

宇田川榕菴張込帳

宇田川榕菴が収集した大砲の図やヒポクラテスの肖像画など、80点余りを張り込んだ冊子です。樺太の地図や精密な昆虫図なども含まれています。



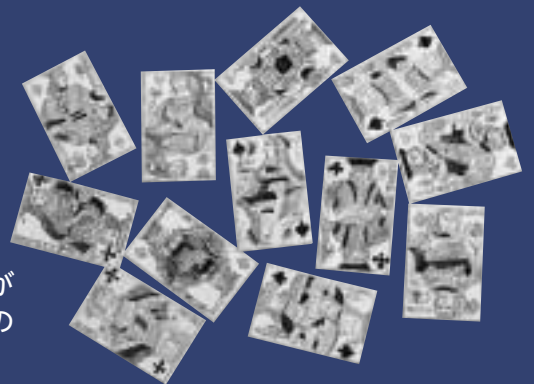
けいらく
経絡人形

漢方医学の解釈に基づいて作られた人体模型です。



オランダおうこくぐんそうずふ
阿蘭陀王国軍装図譜

『オランダ軍隊関係者のための軍服・武器・設備等の解説書』を宇田川榕菴が精密に模写したものです。



オランダ
和蘭カルタ

宇田川榕菴が模写した西洋のトランプです。



しんせいよちぜんず
新製輿地全図

箕作省吾が出版した世界全図。坂本竜馬、吉田松陰、桂小五郎（後の木戸孝允）など幕末の志士に影響を与えました。



しょくがくけいげん
『植学啓原』色校正原稿

宇田川榕菴が植物学の入門書として出版した『植学啓原』の図版の色校正を指示した自筆原稿です。



ないしょうどうばんず
内象銅版図

宇田川玄真が出版して医学書のベストセラーとなった『医範提綱』の付録解剖図。解剖図としては日本で初めて銅版で印刷されています。

津山城築城400年記念特別展
「素晴らしき
津山洋学の足跡」

とき 9月19日(日)～

11月28日(日)

月曜日および祝祭日の翌

日は休館日

ところ 津山洋学資料館

開館時間 午前9時～午後

5時

入館料 一般150円、高

校生・大学生100円

中学生以下無料

問い合わせ先 津山洋学資

料館 23 3324へ